

研究所だより

編集・発行

千葉県長生地方教育研究所
茂原市東郷2300-1TEL 0475(24)9721・FAX 0475(23)4820
H P <http://www.choseikaikan.or.jp/>
メール kenkyujo@beach.ocn.ne.jp

～子育て世代に選ばれる町を目指して～ (長南町の教育を考える)

長南町長 平野 貞夫

【長南町の概要】

長南町は、房総半島の中央東部・長生郡の南西部に位置し、東は茂原市、睦沢町、西は市原市、南は大多喜町、北は長柄町に接しています。昭和30年2月に旧長南町・東村・西村・豊栄村が合併して現在の長南町になりました。

豊かな自然と歴史、文化に触れられる本町ですが、全国的な課題となっている、少子高齢化による急激な人口減少傾向から、平成22年4月、過疎地域自立促進特別措置法の過疎地域の指定を受けることになりました。

過疎地域の指定を受けたことにより、国の支援拡大が図られ、若者の定住促進事業の充実を図り、町の活性化を取り戻す努力をしているところです。

【小学校統合に向けて】

町では、近年の児童数の減少に伴い、よりよい教育環境の整備、充実を図るため、平成22年度、長南町学校規模適正検討委員会を立ち上げました。その後、平成24年度には、長南町学校適正配置検討委員会を組織し、統合の方向性を決め、平成26年度からは長南町小中一貫校設立委員会において、具体化について検討を重ねてきたところです。当初、2校、2校で統合の案が主流でしたが、2度に亘る統合による児童の負担等を考慮し、一気に4校を統合する方向でまとまりました。

平成29年4月の開校を目指し、工期の短縮、費用の縮減を図るため、平成27年6月には、公募型デザインビルド方式による公告をしました。途中、急遽持ち上がった土砂災害防止法の関係で、校舎建設位置見直しに伴う予算措置や、仕様書の変更等乗り越え、同年11月には町議会全員協議会、臨時町議会を開催し、契約締結に至りました。

翌年3月には、中学校駐輪場等の撤去作業から始まり、4月からは本工事に入り、休日もなく工事が進み、当初の工期をさらに短縮し、9月末には完成となりました。

【新生長南小学校校舎落成】

平成28年11月1日、4小学校を統合した新生長南小学校が無事に完成し、落成式を挙行了しました。

見事に建ち上がった校舎には、耐震構造は勿論のこと、ガラスは強化ガラスを使用しています。要所には監視カメラを設置し、外部からの侵入に対して職員室から死角なく管理することが可能になり、安全・安心に配慮しているところでもあります。

教室前には、ワークスペースを設け、全室冷暖房完備、エレベーターに多目的トイレ、スロープを設置し、バリアフリーにも配慮されており、明るい学習空間を確保しています。

また、校舎前のウッドデッキは、一貫教育のシンボルとも言えるべき、小中学生の語らいの場として、さらに交流が図られるものと期待しております。

このように、併設型小・中学校としてハード面の準備が整いました。

【子育て世代に選ばれる町を目指して】

長南町では、子育て世代に選ばれる町を目指しています。本町で学んだ子供が、25年後に子育ての地として長南の地を選んでもらえる施策を推進してまいります。

その核となるべく、本年4月、長南中学校敷地内に建設された新しい校舎で開始される併設型小・中一貫教育は、「教育の町・長南」の新たな時代のスタートであり、活力あふれる町づくりの力強いエネルギーとして、町民からの期待も大きいところです。

昨年11月、西小学校では、千葉県教育研究会視聴覚教育部会からの依頼により、県下の教職員に向けての公開研究会を実施しました。本町に於ける先進的なICT教育の実践をアピールする良い機会となりました。統合校では、開校当初から全児童にタブレット端末270台を準備し、全教室に電子黒板を設置します。これまでの西小学校による成果をベースに、さらなるICT教育の充実に向けた取り組みに、児童、保護者も期待しています。

また、もう一本の柱として期待しているのが、英語教育の充実です。

平成20年度に小学5・6年生を対象に外国語活動として小学校の英語教育は始まりました。23年度に「小学5年生から必修」となり、今では、小学校での英語教育はすっかり定着しています。

この流れにさらに拍車がかかり、小学3年生からの必修化、小学5年生からの教科化が32年度に完全実施されます。移行期間を考えると、学校によっては30年度から段階的に実施されることでしょうか。このような英語教育の変化に先立ち、早期対応し、本町では29年度統合校開校と同時に、小学校1年生から中学校3年生までの9年間を見通した英語教育に取り組みます。

また、ICT教育に代表される先進的な教育ばかりでなく、小学校の統合後も、先人が営々と築いてきた地域の特色ある歴史や伝統、文化を継承していく取り組みとのバランスが大切であると考えます。

今後、具体的な推進に向けては、学校・家庭・地域や関係団体の皆様が一層の連携を深めつつ、それぞれの教育特性を十分に発揮していただくことが何よりも重要と考えております。皆様方の一層の御理解と御協力をお願いいたします。

児童の皆さんには、多くの友達とこの新しい校舎と共に新生長南小学校の新たな歴史を刻み、友情を深めながら、勉学に励み、この21世紀に大きく羽ばたくことを切に願っております。



千葉県における「学力向上」の推進について

千葉県教育庁教育振興部指導課 指導主事 岩崎 元

1 県の学力向上施策の現状

(1) ちばっ子「学力向上」総合プラン

県教育委員会では、「新 みんなで取り組む『教育立県ちば』プラン」の施策をもとに、学力向上に関する5つの視点により関係事業をまとめ、ちばっ子「学力向上」総合プラン（新 ファイブ・アクション）を策定し、様々な取組を推進しています。

【アクション1】

興味ワクワク「読書・体験学習」チャレンジプラン（読書活動や体験活動を通じた学習意欲の向上の視点）

【アクション2】

「子どもたちの夢・チャレンジ」サポートプラン（子どもたちの主体的な学びを支える取組の充実の視点）

【アクション3】

子どもいきいき「授業力アップ」プラン（授業力の向上による学びの深化の視点）

【アクション4】

「評価・改善」アクティブプラン（学力向上に係る取組の適切な評価・改善の推進の視点）

【アクション5】

「教師カトップ」アクティブプラン（信頼される質の高い教員の育成の視点）

(2) 事業の具体について

紙面の都合上、いくつかの事業に絞って簡単に紹介します。なお、詳しくは、県教育委員会のホームページ（以下、「県教委HP」とします）を閲覧してください。

○優良・優秀学校図書館認定事業

アクション1の事業で、県独自の学校図書館自己評価表をもとに、基準に達した学校を優良又は優秀学校図書館に認定することにより、読書活動推進と子どもたちの学習意欲向上を図ります。今年度の優良学校図書館認定の割合は、小学校90.5%、中学校72.5%でした。一方、優秀学校図書館の方は、小学校36.8%、中学校24.1%。各教科等の年間指導計画に学校図書館の活用を位置付けるなどして、様々な学習活動に学校図書館を役立ててみましょう。

○「ちばのやる気」学習ガイドの活用

アクション2の事業で、中学生の学習に役立ち、教師にとって授業のポイントや進め方が分かる学習ガイドの活用を通して、生徒の学習意欲向上、学力向上をねらっています。各教科の県共通評価問題を年間2回Web配信していますので、ダウンロードし、授業、補習、家庭学習等に積極的に活用してください。

○「全国学力・学習状況調査」のデータ及び分析ツールの活用促進

アクション4の事業で、分析ツールの活用による各学校等の検証改善サイクル確立の支援をねらいとしています。県内では、分析ツールの利用状況は概ね良好ですが、分析結果を自校の教育実践の改善に結び付けるために活用することについては、

全国平均を下回っています。特に千葉県では、算数・数学の結果に課題が見られることから、分析結果を学校全体の傾向・課題として捉え、それらに対応した具体的かつ全校的な改善の取組が求められます。

2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

(1) 中央教育審議会答申から

平成28年12月21日に中央教育審議会の答申が示されました。その中では、変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力の育成を目指した、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善の重要性が述べられています。その視点が、以下の3点です。

- 主体的な学びが実現できているか
- 対話的な学びが実現できているか
- 深い学びが実現できているか

これらを踏まえ、これからの授業づくりには、子どもたちの学びへの積極的関与と深い理解を促すような指導や学習環境の設定が求められます。そのため、子どもたちが思考・判断したことを表現するアウトプットの場を効果的に取り入れたり、学びに対する能動性を高めたりするための教師の創意工夫が一層大事になります。

(2) 県の取組

ちばっ子「学力向上」総合プランのアクション3に、関連する事業を位置付けています。

①研究指定校による実践研究

我孫子市立我孫子第一小学校、同我孫子中学校及び県立我孫子東高等学校が、子どもたちの主体的・対話的で深い学びを実現するための授業の在り方について実践研究を進めています。その取組については、県教委HPに掲載していますので、参考にしてください。

②授業評価シートによる授業改善

県教委HPには、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「授業評価シート」を掲載しています。このシートは、アクティブ・ラーニングの視点からの授業づくりのヒントになる項目や、リフレクションに役立つ項目等から構成してあります。自己評価を基本としていますが、様々な活用法が考えられます。ダウンロードして、まずは一度、使ってみてください。

3 終わりに

平成28年度全国学力・学習状況調査分析結果報告書（千葉県総合教育センター）によれば、主体的・対話的で深い学びによく取り組んだと回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向が見られています。こうした学びには一定の効果があったと考えられることから、これからの授業づくりに望まれることは、習得・活用・探究のプロセスの中で、先述の3つの視点からの具体的な手立てを講ずることです。さらに、ちばっ子「学力向上」総合プランの事業や「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを効果的に活用し、“ちばっ子の学びの質を高める変革”を目指していきたいものです。



東上総地区の「学力向上」推進に向けた力ギ



千葉県教育庁東上総教育事務所 夷隅分室長 狩野久志

本年度は65校の指導室訪問を実施させていただきました。各学校では、「学力向上」に向けて様々な取組を通して成果を上げています。「勉強を頑張りたい」という子供たちの思い、「学力を身に付けてほしい」という保護者の願いに対して、学校としてはどのように取り組むのか、どの学校においても重点課題としてあげています。

1 「全国学力・学習状況調査」結果の活用

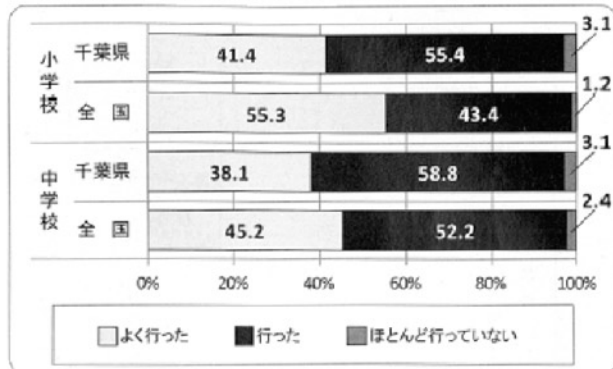
今年度で全国学力・学習状況調査が開始されてから、10年目を迎えました。千葉県の推移を見ると、小学校においては、全体的に低下しており、中学校においては、数学Aが調査以来、全国平均に達していない状況が続いています。

東上総地区の学校訪問から拝察してみると、問題を領域、観点ごとに全国平均正答率を100として、その結果と比べると、小中学校とも、記述式、知識・活用に課題がみられ、特に算数・数学の記述式では「大きく下回っている」といえます。

また、研修として実施後に「分析シートを用いて、自校の結果を分析している」学校は100%ですが、「指導改善サイクルを学校の年間計画に位置付けているか。」では61.5%※1、さらに「児童生徒の実態をもとに『授業づくりシート 学校版』を作成して、指導改善に努めているか。」では76.9%※1が「いいえ」と回答しています。

※1「平成28年度 指導室訪問事前アンケート結果」より
「教科・質問紙分析ツール」、「誤答分析ツール」、「クロス集計ツール」の3つを使って、国や県の平均正答率との比較、各設問でどんなつまづき方をしているのか、自校の児童生徒の生活習慣・学習習慣と学力にどのような関係があるのか等、詳細な分析が可能ですので、ぜひ活用してください。

千葉県としても、ちばっ子「学力向上」総合プランの中で、「学力向上に係る取組の適切な評価・改善の推進」の視点から「分析ツールの活用」や「学力・学習状況」検証事業などの取組を一層推進しています。



学校全体で指導の改善に向けて成果や課題を共有しているか
「平成28年度 全国学力・学習状況調査 分析結果報告書」

2 小学校教育と中学校教育の連携

今年度の調査では「小学校教育と中学校教育の連携」に関わる質問項目が設けられました。

本県の課題の一つであり、小中とも全国の中で下に位置しています。東上総地区では「授業錬磨の公開日」や校内授業研究などを活用した相互の授業参観や情報交換の場を設定するなど、連携に努めている割合は8%(11校)※2伸びています。

※2「平成28年度東上総教育事務所重点目標についてのアンケート結果」より

- ・教育目標の共有化
- ・小中合同の授業研究の実施
- ・教員同士の交流
- ・教育課程に関する共通の取組

連携の取りかかりとしては、中学校区を単位とした管理職の連携や市町村教委による支援など、各中学校区の実態に応じて行う必要があります。

児童生徒が9年間の連続した義務教育の中で、順調に成長していくためにも、小学校と中学校の連携が一層求められます。

3 主体的・対話的で深い学び

「主体的・対話的で深い学び」とは、単元や題材のまとまりの中で、以下のような学びを実現することです。(平成28年12月1日 中央教育審議会答申)

- ①学びごとに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる。
「主体的な学び」
- ②子供同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める。
「対話的な学び」
- ③習得・活用・探究という学びの過程の中で「見方・考え方」を働かせながら、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう。
「深い学び」

上記①から③の3つの学びの過程で、とりわけ「深い学び※3」が重要ととらえます。「学級の友達との間で課題解決に向けて話し合いながら整理して、発表などの学習に取り組んでいた」と感じる児童生徒ほど学習への意欲が高く、思考力・判断力・表現力が身に付いています。

「主体的・対話的で深い学び」を行う際には、教育課程上で育てたい能力を明確に示し、児童生徒に活動の意味を説明したり、形成的に評価したりするなどが必要となります。そして、「付けたい能力」に向かって、より多くの児童生徒が達成感を感じ、学習意欲を持続的に向上していく授業展開となるように、研鑽を積んでほしいところです。※3「深い学び」は平成28年版「東上総の教育」を参照



次期学習指導要領の全面実施に向けて、4月から各教科等で本格的に準備が始まります。

～「すべては子どもたちのために」～ 各学校の特色を生かした実践を期待します。



長生教育の「学力向上」について 『夢多かれ若人』明るい笑顔が人を育てる

長生教育研究会 会長 伊藤 雅 敏

学力とは？

「話をしたら、すてきな人だなあ。」「この人と一緒に仕事をしたい。」そんな雰囲気伝わってくる人こそが真の人間力の高さ、深さを感じさせてくれる。我々は評価の観点として、試験やテストができるできないではなく、人間くささを自然と大事にしているのかもしれない。これも学力の一つであろう。

態度的学力という言葉がある。それ以上に心の学力が高ければ、社会に出て、生きる力を高めることができると信じている。全人的総合的な評価をしていかななくてはならない時代に今、入っていくのかもしれない。

メタ認知という言葉もある。心理学的に追求してしまうと、これは何が何だかわからなくなってしまう。自分を客観的に認識することの大切さを説いているものであることは間違いないようだ。

以上のことを自分自身の歩んできた道を振り返りながら、理屈ではない世界を探ってみたい。

一. 伝統のすばらしさ 『聞き上手』

昔の人たちは苦勞をして、何度も失敗をして、さまざまな基礎・基本を築き上げてきてくれた。

中でも言葉の文化は、奥深く、日本人の心をゆさぶる力は計り知れないものがある。ことわざ、慣用句等、集団の中で生きるための技を編み出してきた。いにしえの人を尊敬し、卒業式は羽織袴である。

平安時代は貴族文化ではあったが、現実の世界をも映し出しながら、文学や建築を一部の人たちが創り上げてきた。それが鎌倉・室町へと移りゆく中で食や美術、日常の美を追い求め、一般市民生活の文化が広まっていった。江戸に入り、100万人が集まる中で、異文化の人たちを融解させて一つにしていくための「江戸しぐさ」が生まれてきた。

その存在自体に議論されてはいるが、いずれにせよ、生きる道を示す文化として、これはすごかった。「傘かしげ」「こぶし腰浮かせ」など現代に通じるものがある。

特に重要視したいのは「聞き上手」である。時代は今、個人の時代になっている。権利を主張する時代になっている。自分の目には「言ったもん勝ち」の世界としか映らない。それでいいのかニッポン。身勝手な人たちをどんどん増やしている。一人一人の力を活かし、みんなで戦う集団戦略には「聞き上手」でなければならない。人の話を上手に聞く力を身につけるのはとても難しい。幼い頃から、培われていくものであり、とても時間を費やしていく学びになる。

となれば、学力向上の第一歩は『聞く力』である。幼児教育の重要性をすべての人に理解してほしい。

二. 今を生きる 『臨機応変』

デジタル化がすべていいという時代になっている。本当にそれでいいのか。アナログだっていいんだぞと言いつけたい。老若男女スマホ時代。ガラケーだって必要ないと常々考えている。そんなに急いでしまって、

ニッポンはどこへ行こうとしているんだ。

時間をかけて変化させていくのが文化の真髄ではないか。時間を縮めての想定の世界がある。疑似体験だか直接体験だか不明確なものが多くなってきた。無駄があるからいいのに、何もかも合理的にすすんでいる。「みんなちがって、みんないい」と言いながら「同じ人間を教え育てよう」としているようにしか見えない。これは間違った認識だろうか。

その場その場で、よりよいものを提供していく力が必要だ。臨機応変な考え方が重要である。朝令暮改を恐れてはいけない。今まで考えていたことが間違いだと気づいたら、その瞬間に進路変更していけばいい。プライドを捨てて謝ってしまえばいい。人間は間違える動物なのだから、失敗したっていいじゃないか。

三. 未来にはばたけ 『夢多かれ』

以前、東上総地区の初任者研修で100人以上の人たちにいつも質問していたことがある。「あなたの夢は何ですか？」みんなまじめだった。「いい先生になりたい」「部活動で勝ちたい」のような回答がとて多かった。学校は大丈夫かなあと心配した記憶がある。

回答の中に「バスタブ一杯にプリンを作って、その中につかり、じっくりプリンを食べ続けたい。」という新採者がいた。おもしろかったし、うれしかった。この先生に教えてもらう子どもたちはきっと体一杯の夢を抱いて、育っていくんだろうな、幸せな子どもたちだなあとうらやましかった。

夢はたくさんあった方がいい。それに向かって進んでいける。これからのニッポンをどう創り上げていくのか。若い人たちのこれからの活躍に大いに期待している。

パレーポールはスーパーエースが一人いても勝てない。レシーブをする人がいて、トスをする人がいてチームができあがる。要は、自分を捨て相手を活かすことができるかが勝負になる。一人一人が下手でもなんとかなる。一人一人がアリでもライオンを倒すことはできる。ニッポンも夢をもった人たちがそれぞれで活かされる世界になってほしい。

かんたんが一番

難しいことを難しく表現して、さらに内容を難しくしてしまい、みんなが理解できない世界を作ってしまう人たちがいる。難しい言葉を使っていると、なぜか自分がすごいでいいのではないかと錯覚してしまう危険性を合わせていることに気づかない。

いつも考えていることは「難しいことを、いかに簡単に伝えるか」である。わかりやすく、誰にでもわかるように、簡単な言葉で伝えていきたい。

明るい笑顔が人を育てる

笑顔が一番。暗かったら意欲がなくなる。先生が教室でいつもいつも暗かったら、子どもたちも暗くなってしまふ。つらい時だからこそ笑顔を忘れず、子どもたちの未来を切り開いてあげようではないか。

平成28年度千葉県長期研修生 研究報告



社会認識を育む社会科学習の在り方
～知識基盤社会における
探求のプロセスを中心に～

長南町立長南小学校
教諭 古内 忠広

I 研究主題について

本研究では、児童が社会的事象を説明できることをねらった学習問題を設定し、調べた社会的事象の因果関係を探ることで概念的知識を形成することができる授業構成を行う。それにより、習得した概念的知識を用いて、学習問題に設定した社会的事象を説明できる「まとめ」を書くことができると考えたからである。

そこで、社会科の問題解決的な学習に、発見した社会的事象の概念化を図る「探求のプロセス」を設定する。そして、概念を組み合わせた学習問題の説明が、学習指導要領の内容に位置付けられたものと一致することを目標にする。「知識基盤社会」の今日こそ、社会的事象の因果関係を探り、個別的な事象を越えた法則性を示す概念的知識の基礎・基本を習得することで児童の社会認識を育み、新しい知識や情報を発信していくことができるはずだと考え、本主題を設定した。

II 研究の目標

小学校社会科歴史学習において、児童の社会認識を育み、思考力・判断力・表現力等を高めるために、問題解決的な学習に探求のプロセスを取り入れることの有効性を明らかにする。

III 授業の概要（第6学年 10時間扱い）

1 「探求のプロセス」の設定

45分間の「教師の指示・発問、説明」と「児童に期待したい学習活動発言等」の流れを想定した「本時の探求のプロセス」を、毎時の指導案に加えて作成する。それにより、児童が事実に知識を発見し、概念的知識を形成する過程を想定して授業を実施する。

2 資料やワークシートの作成

児童が思考し判断する手立てとして、発見した事実や概念が客観的に正しいかどうか皆で確認し、事象を自分に引き付け、客観的には判断できない側面も含めて主観的に捉えることができる、ワークシートを作成する。また、「探求のプロセス」に沿った画像スライドの資料を用意し、思考・判断を促す補助的な手立てに用いる。

3 まとめめの検討

児童は、毎時学んだ社会的事象を説明する「本時のまとめ」を積み重ねることで、発見した概念的知識を用いて、「学習問題」を説明する「単元のまとめ」をまずは自力で書く。次に、ノートに書いたまとめを模造紙の短冊に写して一枚の模造紙に貼り、児童は集まった個々のまとめを比較して必要な社会的事象や概念を抽出し、再度まとめを書く。

その結果、①探求のプロセスの設定により、社会的事象の概念化を図る思考の流れを明らかにして、授業を実施することができた。その際、全員が共通の問題を考えて個々に判断が必要な場面で、配布資料やワークシートを用いて思考・判断したことにより、児童自らの力でまとめを書くことができた。②学習問題のまとめを協働で検討したことで、児童は、概念的知識の補足をすることができた。



「学校教育相談を学ぶ」

長生村立長生中学校
教諭 今井 雅浩

I 主題設定の理由

本研究では、教員としての学びの在り方を考察するために次のことを探りたいと考え、本主題を設定した。

- (1) 長期研修において、私たちの学校教育相談のとらえ方の変容を振り返って整理する。
- (2) 研修の受け方や学び方を提案するために、私たちの変容に至るプロセスにおける要因を模索する。

II 研究目標

教育臨床プログラム（大学の講義や関係機関での実習）の研修を通じた研修生の変容、及び変容に至るプロセスを考察することで、教員の学びの質を向上させる要因を考察し、学校教育相談を学ぶために必要な視点を見出す。

III 研究の概要

- (1) 研修生のそれぞれの変容をKJ法により、整理していくと、「教育相談」のとらえ方に大きな変化があり、そこにカウンセリングの考え方の学びが大きくかかわっていることに気づいた。研修生の考える教育相談のイメージは、研修生の変容からとらえ直した教育相談のイメージ図である。本研究では、「学校教育活動にカウンセリングの考え方を取り入れた」円の重なり部分を「学校教育相談」とした。
- (2) 変容に至るプロセスの中で影響したことを整理すると、内省を中心にそこへはたらきかける外的な要素には、知識・理論・技能、体験、チームでの取り組みという3つがあると考えた。

IV 研究のまとめ

- (1) 学校教育相談のとらえ方を学校現場に取り入れるために、児童生徒とともに考え、時には悩むことで信頼関係を築き、児童生徒の言動のみにとらわれず気持ちや背景に目を向けたい。
- (2) 個々が変容するには内省が重要である。研修の機会を内省の場ととられること。職場の同僚と経験や体験を伝え合い、悩みや考えを交流することは、新たな自分に気づく機会となる。このような学び続ける姿勢をもちたい。
- (3) チームで取り組むことは、お互いに意見をぶつけ合うのではなく、うまく伝え合いながら尊重し合い、折り合いをつけることである。また、養護教諭や事務職員等の専門職の思いや視点は、貴重な意見であることが多く、大切にしたい。人間関係を良好にし、信頼関係を構築することがよいチームになる基盤となる。

私たちは、児童生徒の心の成長を目指すために、子どもから学ぶ謙虚な姿勢をもった内省できる実践家であり続けたい。



「ゴール型のゲームにおける状況判断とサポートに関する研究」
—オールコートゲームにおける攻守の切り替え時に着目した指導のあり方について—

一宮町立一宮小学校

教諭 篠田 淳志

I 研究主題について

小学校学習指導要領体育編の高学年におけるボール運動では、いつ、どのような力を、どのように身につけさせればよいか明確となり、授業づくりの方向性が捉えやすくなってきた。しかし、気をつけなければならないことは、これらのことが必ずしも学習内容の習得に直接結びつくわけではないということである。それは、児童の意欲的な授業参加と学習内容の習得を期待したときには、教材や配列、適切な指導方法が極めて大切となってくるからである(岩田,2012)。そこで本研究では、ゴール型の簡易化されたハンドボールに着目し、状況判断やサポートを適切に行えることや、攻守が切り替わった局面でも適切な判断ができるようになるためのドリル・タスクゲームの教材づくりを考案し、実践していく。その中でも重要な「攻守の切り替え時の判断」に焦点をあて、教材や配列、適切な指導方法について検討することとした。

II 研究目標

ゴール型のゲームにおける状況判断やサポートに関する指導に着目し、オールコートゲームにおいて、適切な攻守の切り替えを可能とするような指導のあり方を明らかにする。

III 授業の概要(第5学年1組 10時間扱い)

1 単元構成の工夫

初めに試しのゲームを行い、児童の身に付けたい技能や理想のチーム像の課題を把握し、学習のゴールイメージを持たせた。単元後半から切り替え場面を実践し、確認することを児童とともに考えながら伝えていくことで、適切な状況判断に基づく意図したプレーや攻守の切り替え時の判断や動きができるようにした。

2 教材づくりについて

「攻守の切り替え時における判断手順」として、ボールを捕ったプレーヤーは①相手や味方の位置の確認②自分の体の向きの確認③ボールを捕った場所を素早く確認後、正しい状況判断につなげていく。また、ボール非保持者は、すぐにパスコースをつくる動き(チェンジ、前、横、後ろに動く)をして、パスをうける場所に動く。以上の判断手順を基に、事前単元を実施した。そこでの成果と課題から、場や人数、ルールが児童にとって難しすぎず、切り替え後もお互いにゴールするという目的があることで、自然と切り替え場面が発生しやすくなる、「切り替えサークルゲーム」(4vs2)を考案し、実践した。

その結果、①教材配列を工夫した本単元の指導を行うことにより、攻守の切り替え時の状況判断とサポートの力がついた。②教材づくりとして、タスクゲームで取り組んだ切り替えサークルゲームは、攻守交代型のハーフコートゲームから攻防入り乱れ型のオールコートゲームへの段階を通して学習していく形態として、児童に適した教材であることがわかった。

「教務主任研修会を振り返って」



長柄町立日吉小学校
教諭 藤田 英和

本年度の教務主任研修会は、講話中心の「全体研修」と小・中学校別並びに中学校区別による「部会別研修」にて研修をすすめました。

講話では、「アクティブ・ラーニング」「道徳の教科化」「外国語活動について」など、新しい学習指導要領実施に向けた内容が多く取り上げられました。これらの内容は、私たち教務主任にとって、今、最も必要な知識や情報であり、大変意義ある研修となりました。また、本年度の全体研修を通じて、次年度以降の教務主任研修会での課題が具体的に見えてきたように感じています。

小・中学校別・中学校区別による研修では、お互いの情報交換だけでなく、次期学習指導要領に向けて、私たち教務主任が具体的にどのようなことを計画し、進めたいかなければならないのかということが話題となりました。また、学校生活上の疑問や課題について、経験豊富な方からのアドバイスをいただけたことは、私たちがこれから教務主任として職務を遂行していく上での大きな指標となりました。

全体を通して、本年度の教務主任研修会は、より実践的な内容の研修を深めることができたように感じています。

最後になりましたが、本年度の教務主任研修会にご指導をいただきました講師の先生方や、関係者に感謝申し上げます。



長生村立八積小学校
教諭 岡田 弘道

今年度も、全5回にわたる教務主任研修会に参加させていただきました。

「東上総地区における教育的課題」についての講話に始まり、「アクティブ・ラーニング」や、「教育法規演習」、「道徳の教科化」、「外国語活動」など、学校の教育計画の立案にあたる教務主任にとって、考えるべき喫緊の課題について学ぶことができました。

その中でも特に印象深かったのは、「外国語活動」についてです。東上総教育事務所の福田茂博指導主事から、教科化に向けた授業コマ数の組み方や、評価についての研修を受けました。先が見えず、不安であった内容であっただけに、前途に光明を見出すことができました。

また、毎回行われていた部会別研修では、他校の先進的な取組について知る絶好の機会となりました。自校の取組についてもご意見をいただき、多角的な視野で取組を見直す機会となりました。

教務主任研修会で得たことを職場に還元すべく、資料等に注釈を付け、回覧をすることがあります。「後でもう一度見せてください」とおっしゃる方もいらっしゃいました。今年度の研修で扱われた内容が、先生方にとって興味深く、大切な内容であることの証かと思えます。この研修を糧にして、児童のために努力を惜しまず、鋭意努力して参ります。

「初任者研修を振り返って」



茂原市立鶴枝小学校
養護教諭 土屋 美穂

5月から始まった初任者研修。今まで不安な気持ちを抱えたまま務めていたが、校内・校外研修でベテランの先生や専門家から学ぶことができ、学び多き一年だった。

校外研修は、毎回興味深い内容でとても充実した研修だった。特に「教育相談」に関する講話での「いい耳を持った養護教諭になって欲しい」という言葉が印象に残っている。本校でも様々な理由で週に複数回来室する児童がいる。どの様な来室理由であっても決めつけたり「またか。」とは思わず、保健室来室時には作業の手を止め、入室時の子どもの様子を注意深く見るよう心がけている。

また、校内研修では教員としての倫理観や養護教諭の執務について学ぶことができた。初任者指導養護教員の宮崎先生からは、保健指導や健康診断時の準備の仕方等、本校の実態に合ったきめ細かな研修を受けることができた。さらに、宮崎先生の児童に対する話し方や目線の位置、入室時の対応の仕方を間近で見ながら、実践的に学び、すぐに現場で活かすことができた。

子どもたちと接する中でまだまだ課題はたくさんあるが、今後は初任者研修で学んだことを活かしながら学級担任や職員との報・連・相を適切に行い、連携する力を身につけていきたい。また、困ったときは相談できる仲間がいることを忘れず、刺激しあいながら、養護教諭としての質を高めていきたい。



茂原市立茂原中学校
教諭 金杉 由惟

教員となり、早いもので1年が経過しようとしています。この1年間の初任者研修を振り返ると、20回の校外研修と、指導担当の先生に付いていただく校内研修で、教員としての在り方等、様々なご指導をいただくことができました。

校外研修では、学級経営や生徒指導、現代の教育課題などを学ぶことができました。特に生徒指導についての演習のある研修では、自分が指導をする場合にどう動くか、また、どのように指導を行うのが適切であるのか等、話し合いの中で指導方法を見つけ合うことのできる良い機会となりました。

校内研修では、自分の授業を担当の先生に見ていただき、その直後に助言をいただくことができたため、いただいた助言をすぐに次の授業に生かすことができました。また、私は同じ国語科の先生に担当をしていただいたため、文字の書き方や毛筆の使い方等、書写についてのご指導をいただくこともできました。文字のバランスや書くときのポイント、書き順など、書写指導を行う上で実践すべきことを多く指導していただき、今後の糧とすることができました。

初任者研修では、自分の行ってきた授業や指導について振り返り、課題を見つけ、改善できる素晴らしい機会となりました。研修を通して学んだことを生かし、今後子どもたちのために、教員として日々成長していきたいと思っています。

「5年経験者研修を振り返って」



茂原市立緑ヶ丘小学校
教諭 脇坂 将史

教員生活も6年目を迎えました。学校生活でも、少しずつ先を見越して授業準備や生徒指導に取り組めるようになってきたと感じています。まだまだ至らない点も多く、諸先輩方にご指導をいただいているのが現状です。

いつしか職場にも自分より若い先生方が勤務するようになりました。彼らに負けないよう背筋を伸ばして精進していかなければと思っています。

研修では、「どのように学ぶか」という「学びの質」や「深まりを重視すること」が必要であり、子どもたちが自ら課題を発見し、解決に向けて主体的・対話的に学ぶ学習が求められていることを教えていただきました。また、「教員としての倫理観の高揚」の研修では、わいせつ・セクハラなどの事例や問題点を一つ一つ振り返り、教職員としての様々なモラルを再確認することができました。

何よりも心に残ったのは、参加している先生方との協議会で、レポートの話し合いを行っている時、多様な意見が次々と出てきたことです。それぞれの先生方が5年間、様々な経験を積み重ねてきたのだと感じる時間となり、良い刺激を受けました。

この一年間の研修で学んだことを、学校現場で生かし、子どもたちの成長を一番に考えながら、日々実践していきたいと思っています。このような学びの機会を与えていただき感謝いたします。



茂原市立東中学校
教諭 篠崎 佳生里

教員になって6年目を迎えた今年度、初任者の頃に比べて、仕事の見通しを持つことができるようになりました。しかしその反面、今までは私自身がアドバイスをいただいていたのですが、若手の教員が増え、少なからず後輩から頼られることも多くなってきました。こうした自分の立場に少しずつ変化が開始した時に、5年経験者研修の機会を頂きました。

研修では、「グローバル人材の育成」、「自ら学び、思考し、表現する力の育成と言語活動の充実」、「教員としての倫理観の高揚」、「豊かな心を育む生徒の育成」、「小・中・高の接続を意識したキャリア教育」などについて学ぶことができました。当たり前になってしまっている「先生」という立場。私たちは毎日教壇に立ち、多くの可能性をもっている生徒と接しています。研修を受講し「すべては目の前にいる子どもたちのために」というキーワードを改めて再認識することができました。

また、講師の先生と参加者の先生方との協議では、この5年間で経験したことや身につけたスキルを発表し合う場となりました。同期の仲間の成長が大きな刺激となり、より一層、がんばるぞという意欲がわいてきました。

今回の研修を通して、中堅教員としての自覚を持ち、学んだことを糧に、後輩の模範となり、リードしていきたいと思っています。

「10年経験者研修を振り返って」



一宮町立一宮中学校
教諭 石井 晶子

今年度、10年経験者研修に参加させていただきました。各研修では、中堅教員としての役割や保護者との信頼関係づくり、校務を推進する企画力、生徒指導問題、専門教科や道徳の指導方法の幅を広げられるような学習をさせていただきました。夏季休業中には、少人数形式による研修が3日間ありました。生徒理解研修ではそれぞれの経験した不登校生徒への対応や教育相談のポイントについてお互い悩みを話し合いました。専門教科である英語教育については、いろいろな指導例を知ることができ、すぐにでも授業に取り入れていこうと思える学習方法を多数獲得できました。道徳の研修では各自が持ち寄った指導案の中から1つ選び、グループごとにその授業案をさらに練り上げ模擬授業を行いました。映像教材の活用の仕方やネームプレートやカードを活用した考えを視覚化した指導方法など、今後の自分の授業の参考になる指導方法ばかりでした。また異校種体験として長生高等学校の英語の授業を2日間参観させていただきました。先生方がプリントを補助教材として毎回用意されており、そのプリントにそって生徒は授業内容を確認していました。今後のオールイングリッシュで授業を行う上での手立てとなる工夫をたくさん知ることができました。10年経験者研修で学んだことを生かし、今後も生徒のために力を尽くしていきたいと思えます。



白子町立南白亀小学校
教諭 富永 綾子

教員として教壇に立ち11年目を迎え、今年度、小学校10年経験者研修に参加させていただきました。

研修会では「中堅教員としての校内研修とのかかわり方」「新たな学びに関する教員の資質向上のための研修」「校務を推進する企画力」などについて学習し、中堅教員として今私たちが学ぶべき課題について理解を深めることができました。

夏季休業中には、教科指導、児童指導、道徳等に関する研修がありました。受講者同士で日々の実践の具体的な取り組みや、悩みなどを共有し、問題解決の糸口を見つけていくことができたことで、共に悩みながら児童のために懸命に取り組んでいる仲間がいることを実感することができました。

2月には、受講者各自が課題設定して1年間取り組んだ教育実践の協議会を行いました。それぞれが10年間で培ってきた学習指導法や新しいチャレンジなどを交流することができ、大変刺激を受けました。

本研修は、これまでの10年を振り返り、今の自分の立ち位置を考え、気持ちを新たにして教育活動に取り組む、貴重な機会となりました。中堅教員としての自覚を持ち、さらに研修を重ね、今後も児童、そして学校全体のために力を尽くしていきたいと思えます。

「スクールリーダー研修を振り返って」



長南町立東小学校
教諭 前森 礼

東上総地区の中堅世代、23名の先生方と共に2年間の研修に参加させていただいた。

2年間にわたる本研修で、合計20の講座を受講した。「教育法規」「文書等の取り扱い」など事務的な内容から、「生徒指導」「特別支援教育」など実践的な内容、「道徳教育」「アクティブラーニング」など現代的な内容と多岐にわたっていた。多くの講座では、講師の先生方の熱心なご指導に加え演習の時間が設けられ、研修生同士で情報の交換や課題の追求ができたことも貴重な学びの機会となった。

2年間の研修の中で、毎年1名の代表者が「授業研究」を行い、協議会を通して意見の交換を行った。5年生の算数、6年生の国語の授業が展開されたが、どちらの授業も学習規律が身につけている上に、適切な発問、助言によって授業が進められ、児童が十分に考えたり表現したりすることができていた。同世代の先生方の素晴らしい授業を拝見し、刺激を受けると共に、自分の授業における発問や指導方法を見直す良い契機となった。

本研修を通して、どの講師の先生方からも「ミドルリーダーとして先輩と後輩のパイプ役になること、学校全体を見渡すこと」をお話いただいた。自分にはまだその力量はないが、本研修で学んだことを生かして、学校現場で少しでも力が発揮できるよう、これからも努力を重ねていきたいと思う。

教育功労表彰

○長生地区市町村教育委員会連絡協議会表彰

- 茂原市立東郷小学校 校長 伊藤 雅敏
- 茂原市立豊岡小学校 校長 河野 健市
- 長南町立東小学校 校長 糸井美佐子

掲載順につきましては、順不同とさせていただきます。

(敬称略)

○長柄町教育功労者表彰

- 長柄町立長柄中学校 教頭 中山 勤

○一宮町教育委員会顕彰

- 一宮町立東浪見小学校 教諭 渡邊 明博